



大崎地域観光 PR Facebook
「アイラブオオサキ」への投稿も
行っています。

秋の大崎管内

▶岩堂沢ダムの紅葉



▶高城地区（色麻町）
ごぼうの収穫



農地整備事業の権利者会議を開催しました

権利者会議とは、農地整備事業により農地の区画形状を変更したことに伴い、従前の土地所有者が工事後のどの土地に登記されるかを定めた「換地計画」を決定するための会議です。権利者会議は関係権利者の3分の2以上の出席で成立し、出席者の3分の2以上の賛成により可決されます。

農地整備事業 江合左岸地区

日程：令和3年10月12日 会場：江合川沿岸土地改良区

江合左岸地区は、大崎市古川の北西部に位置し、一級河川江合川の左岸に展開する平坦な水田地帯です。地区面積は721.8ha、受益面積は632.9haで平成10年度に着工し、総事業費約82億円をかけ、令和5年度に工事完了予定です。

今回の権利者会議では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前に書面議決書の提出をお願いし、当日の入場者を最小限に抑えて開催しました。

会議は総権利者数771名のうち、書面議決書の提出による出席者と当日の出席者を合わせた637名の出席で成立し、631名の賛成により換地計画案は可決されました。



農地整備事業 広長地区

日程：令和3年11月25日 会場：鶴田川沿岸土地改良区

農地整備事業広長地区は、大崎市鹿島台に位置し、二級河川広長川の右岸に展開する水田地帯です。地区面積は145.8ha、受益面積は119.4haで平成17年度に着工し、総事業費約18億円をかけ、令和2年度に工事が完了しました。

今回の権利者会議では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前に書面議決書の提出をお願いし、当日の入場者を最小限に抑えて開催しました。

会議は総権利者数210名のうち、書面議決書の提出による出席者と当日の出席者を合わせた182名の出席で成立し、182名の賛成により換地計画案は可決されました。



古川黎明中学校の3年生が田んぼダムの現地視察に訪れました

令和3年10月28日、大崎土地改良区が主催した水管理学習会が開催され、大崎耕土について学習をしている古川黎明中学校の3年生20名を対象に授業が行われました。当部からは全行程の1番目に、田んぼダムの実証に取り組んでいる千刈江地区の現地で、「田んぼダムで水害対策～普段は田んぼ、時々ダム～」と題して、田んぼダムの役割や田んぼダムの仕組み、効果などについて説明を行いました。

説明の後、実際にほ場において、自動排水栓の操作実演とロート型堰板設置箇所の見学を行いました。



▲現場での説明

古川第五小学校の5年生を対象に 田んぼダム出前講座を実施しました

令和3年11月2日、田んぼダムの普及促進のため、大崎市立古川第五小学校5年生131名を対象に出前講座を行いました。

授業では前半に大崎市世界農業遺産推進課の職員より、世界農業遺産「大崎耕土」の自然環境や巧みな水管理システムについて、大崎耕土の図や蕪栗沼遊水地の様子を撮影した動画を用いて説明が行われました。

後半は県農政部農村振興課の職員により、「田んぼダムを知ろう！～ふだんは田んぼ、ときどきダム～」と題し、大崎耕土の現代版巧みな水管理である田んぼダムのしくみや効果などについて説明を行いました。

その後、通常の田んぼと田んぼダムとで排水量を比べることのできる模型を使用して水理実験を行いました。実験では、通常の田んぼの方が田んぼダムよりも早く住宅地の浸水が始まり、児童の皆さんは田んぼダムの効果を体感することができたのではないかと思います。



▲大崎市職員による授業



▲県農村振興課による授業

大崎耕土の伝統野菜を紹介します

上伊場野里芋（かみいばのさといも）

大崎市三本木の上伊場野地区で作られてきた里芋です。鳴瀬川沿いの肥沃な土壌のもとで作られることで、カマンベールチーズのようなねっとりとした食感が特徴となり、クセがなく多様な具材、調理法と相性がよいことが魅力です。



小瀬菜大根（こぜなだいこん）

加美町の小瀬地区で古くから栽培されている葉と茎をメインとして食べる大根の一種です。現在では栽培農家は3戸ほどに減っています。シャキシャキとした食感が特徴で、味のクセは少なく、地元では主に漬け物として食されてきました。



鬼首菜（おにこうべな）

大崎市鳴子温泉の鬼首地区において農家が代々種を取りつないできたカブ菜の一種です。味はほんのり辛みがあり、香りが強いのが特徴です。葉や茎が緑色のものと紫色のもの2種類があります。



石母田ふる里保全会が蟬堰現地見学会を開催しました

令和3年11月1日,NPO 法人石母田ふる里保全会が加美町立宮崎小学校4年生19名を対象に蟬堰現地見学会を開催しました。

蟬堰は,加美郡加美町の鳴瀬川に設置された農業用水の取水堰です。1660年から1670年にかけて,石母田家6代長門永頼の命により,家臣海老田新蔵人良安及び町方役検断佐藤与惣兵衛出雲の指揮で堰本体及び水路(水路トンネルを含む)を造成しました。1980年に県営災害復旧事業により現在の位置で改修され,現在も宮崎に広がる水田約267.8haを潤す重要な施設であり,地域の農業や生活を支えています。

見学会では,最初に平成15年まで使用されていた旧取入口から隧道内部に入り,手掘りの隧道の様子を見学しました。隧道内では掘堰の際に明かりを灯した跡である火床や凹凸のある壁面から当時の作業の苦勞を感じ取れる様でした。

その後,難工事を乗り越えるために人柱となり,身を捧げた海老田新蔵人良安の子喜七郎が眠る台崎縁切地蔵尊や掘堰に尽力した海老田新蔵人良安と佐藤与惣兵衛出雲の墓を訪れ,町の用水確保の歴史を学びました。

蟬堰の詳細な情報は「蟬堰水物語」として県のHPで紹介しています。 [△台崎縁切地蔵尊の見学](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/semizeki-mizumonogatari.html)
(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/semizeki-mizumonogatari.html>)



▲隧道内部の見学



▲台崎縁切地蔵尊の見学

小牛田農林高等学校の1年生を対象に 農業農村整備事業学習会を開催しました

小牛田農林高等学校農業技術科農業土木コースの1年生を対象に農業農村整備事業学習会を開催しました。

この学習会は農業土木コースで学ぶ高校生に農業農村整備への理解を深め,学校での学習や今後の進路選択に役立ててもらうため,平成18年度から毎年開催しています。

農業農村整備事業学習会(施設見学等) 令和3年11月9日開催

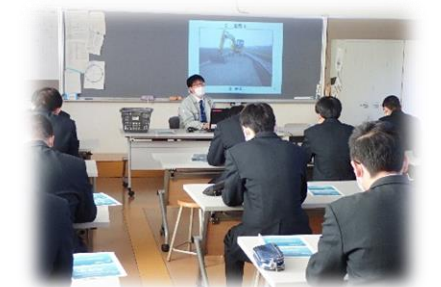
二ツ石ダム(加美町宮崎)と桑折江頭首工(大崎市三本木)の見学を行った後,高校に戻り,現在,農地整備事業実施中の千刈江地区を事例に,農地整備事業や田んぼダムについて説明を行いました。

農業農村整備事業学習会(講義形式) 令和3年12月3日開催

農業土木,農業農村整備,ほ場整備事業について講義形式の学習会を実施しました。



▲桑折江頭首工の見学



▲講義の様子

農地整備事業を計画中の3地区で土壌調査を実施しました

令和6年度事業採択予定で農地整備事業の計画を進めている下真山地区（大崎市岩出山）、藤沢地区（栗原市瀬峰）、有壁地区（栗原市金成）の3地区で土壌調査を行いました。土壌調査は農地整備事業を行うために必要な調査であり、土壌の土色や土質、還元状態に対する反応を確かめます。この調査の結果を整備時の用水量に関する基礎資料の作成や暗渠排水設置の要否の判断材料とします。

調査では、まず、検土杖（溝の付いた杖状の金属製の道具）を使って田んぼの土を採取し診断を行い、大まかな土壌の分布を調べました（検土杖調査）。そして、後日、大まかな土壌の分布から代表地点を数箇所決め、その箇所に幅・深さ1m程の穴を掘り、実際の土壌の断面を見てより詳しく診断を行いました（試坑調査）。



▲検土杖による採土



▲土壌の診断



▲試坑調査

南原ホテルの里保全の会が東北農政局長賞を受賞しました

令和3年11月18日、「令和3年度 豊かな村づくり表彰事業 東北ブロック表彰式」が開催されました。式は感染症対策として、4県4会場に分かれて行われ、宮城会場の仙台合同庁舎（国）では、大崎市鳴子温泉南原地区の「南原ホテルの里保全の会」が東北農政局長賞を受賞しました。

地理的に高い場所にある南原地区は、用水を確保するため江戸時代に手掘りの水路トンネル「南原穴堰」を開削しました。穴堰からの用水は現在まで350年以上、農業用水のほか、生活用、防火用にも使用され、保全の会を中心とした組織による維持管理されています。

穴堰からの用水は低温であるため、田んぼに水を入れる前に、ぬるめ池やぬるめ水路を使って水温を上げる巧みな水管理も行われてきました。

また、近年では、耐冷品種の米「ゆきむすび」の栽培や環境保全型農業にも取り組み、4種類のホテルが飛び交うホテルの里を守り続けています。これらの地域づくりが評価の対象となり、今回の受賞となりました。

南原穴堰の詳しい情報は「南原穴堰水物語」として県のHPで紹介しています。

〈<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/minamihara-mizumonogatari.html>〉

豊かなむらづくり全国表彰事業

農山漁村における「むらづくり」の優良事例の表彰を行うとともに、あわせてその業績発表等を行うことにより、むらづくりの全国的な展開を助長し、もって地域の連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的に昭和54年度から農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催しています。



宮城県北部地方振興事務所農業農村整備部

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭四丁目1番1号(宮城県大崎合同庁舎4階)

TEL 0229(91)0701(代表)

FAX 0229(23)5014

ホームページ 〈<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/>〉

大崎地域観光 PR Facebook 「アイラブオオサキ」〈<https://m.facebook.com/loveosaki?rdr>〉

編集:北部PRWG

